授業づくりを基盤とした生徒指導
― 子どもたちが生き生きと活動できる学校づくりを目指して ―

田原市立中山小学校
兼 松 貴 志

はじめに

中山小学校では，平成２３年度に田原市教育委員会から３年間の学習指導の研究委嘱を受け，生活科・理科の学習に取り組んできた。そして同時に、授業づくりをきちんと行うことで、子どもたちが生き生きと活動できる学校をつくり、生徒指導面においても成果を上げることを目指してきた。研究を通して「問題解決型の授業づくり」を行ってきたことで，子供たちは生き生きと毎日の授業に取り組むようになってきた。また，「言語活動」を通して，自分の気持ちを堂々と表現したり，友達の意見を参考にしながら新たな考えを構築していくことで，自分の存在価値や人とかかわることの大切さについて理解するようになってきた。そこで，「授業づくりを基盤とした生徒指導」における『授業のつくり方』について詳しく述べていきたい。

本校の子供たちは，観察や実験など活動を伴う学習に意欲的で，様々な疑問をもつことができる。また，友達と協力して活動することもできる。こうしたよさを生かし，さらに対象とのかかわりを深める中で，子供たちが疑問から問題意識をもち，それぞれの考えを交流しながら，解決していくという追究する喜びを味わわせたいと考えた。そこで，研究主題を「かかわり　考え　学び合う」として研究を進めてきた。

問題解決型の学習過程 「ステップなかやま」

過　程	生活科	生活単元学習	理　科
なぜだろう	対象に出会い 問題意識をもつ		
かんがえよう	対象にかかわり 気付きを表現し 深める	対象とふれ合い 活動する	問題解決に 向けて 見通しをもち 追究する
やってみよう			観察・実験を もとに 学び合って 考えを深める
まとめよう	活動を振り返り 生活に生かす	生活に広げ 生かす	見つけた きまりや特徴を 生活に広げる

この主題に迫るために，子供たちの思考にそった問題解決型の学習過程**「ステップなかやま」**を研究の柱として考えた。これは，単元を「なぜだろう」「かんがえよう」「やってみよう」「まとめよう」の４つの過程で構想し，子供たちの考えを交流しながら，問題解決をしていくものである。

「なぜだろう」は，子供たちが対象に出会い，疑問を出し合いながら，問題意識をもつ過程である。

「かんがえよう」「やってみよう」は，さらに対象とかかわり，気付きや考えを深めたり，見通しをもって追究したりする過程である。新たな課題が生まれたときは，この過程を繰り返しながら問題解決に向かう。

「まとめよう」は，活動を振り返って生活に生かしたり，きまりや特徴を見つけて生活に広げたりする過程である。

このようなステップを踏むことで学習の進め方を理解した児童は、「授業の楽しさ」を知り、生き生きとした学校生活を送るようになってきた。

1　めざす子供像

「かかわり　考え　学び合う」を，本校では以下のようにとらえている。

かかわる子	考える子	学び合う子
対象に自らかかわり 問題意識をもつ子	自分の考えをもち 問題解決に向けて 追究する子	友達との かかわり合いを通して 自分の考えを深めたり 広げたりする子

2　研究の手だて

「ステップなかやま」の過程を通してめざす子供像に迫るために，次のような手だてを考えた。

手だて①　子供が夢中になる 教材や教具の工夫
手だて②　子供の問題意識を引き出す 導入の工夫
手だて③　気付きをもとに考えをもつ かく活動の工夫
手だて④　考えを深め 広げる かかわり合いの場の設定
手だて⑤　自分の活動を見つめ直す 振り返りの場の設定

3　研究を支える活動

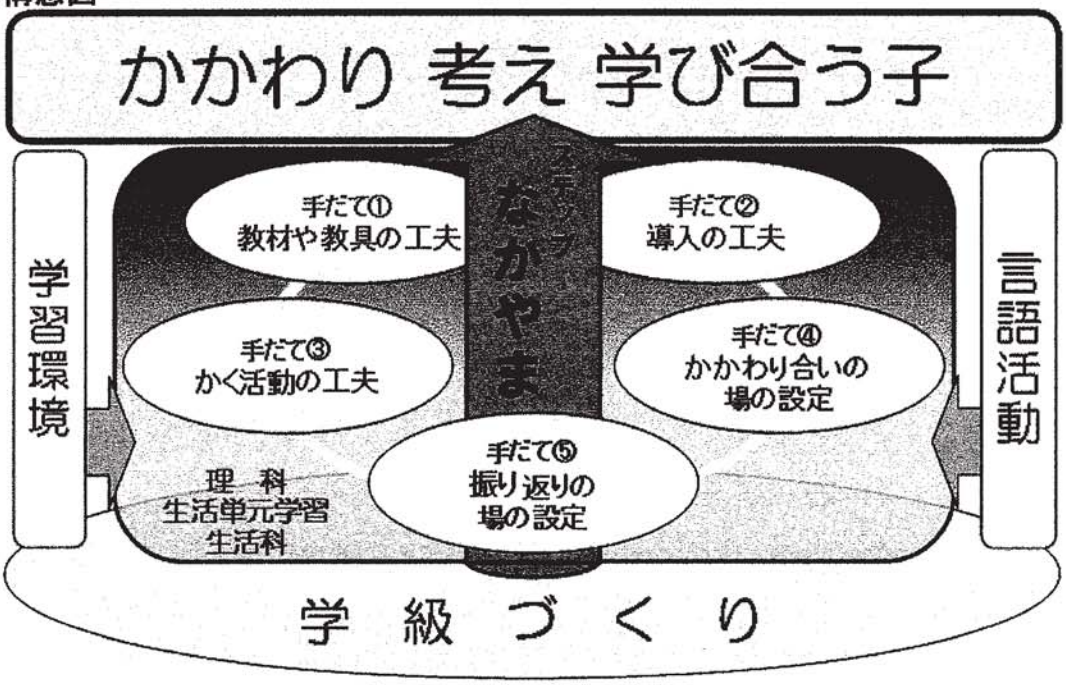
科学する心を育てる学習環境

ア　身近な自然や科学への関心を高める「サイエンスショー」
イ　体験を通して科学に興味をもたせる「わくわくコーナー」
ウ　身近な自然や事象にふれ合う校舎内外の環境

思いを伝え合う言語活動

ア　話し合う力を育てる「なかトーク」
イ　言語感覚を養う「ことトレタイム」
ウ　言葉に親しむ群読

4　研究構想図



5　言語活動の実際

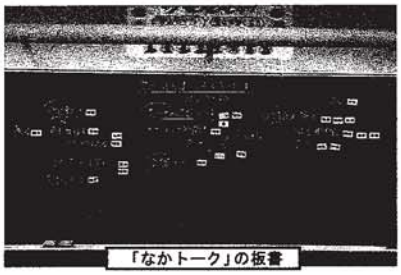
～思いを伝え合うことで、お互いを認め合うようになってきた子どもたち～

思いを伝え合う言語活動

ア「なかトーク」

・　話したり聞いたりする力を育むために，話題提供者が発表した意見に話題をつなげて話し合う活動を，毎週木曜日の朝１５分間行っている。

「なかトーク」の様子


「なかトーク」の板書

【７月４日　６年１組のなかトークの記録　抜粋】

A児：今日のなかトークのテーマは「クロールを速く泳ぐためにはどうしたらいいか」です。ぼくは，バタ足を強くすればいいと思います。バタ足を強くすれば前に進むと思うからです。みんなはどう思いますか？

B児：私もＡさんに賛成でバタ足を強くすればいいと思います。バタ足を強くすれば，体が浮くので速く泳げると思います。

C児：私は，息つぎの回数を減らせばいいと思います。息つぎをするとブレーキになると思うからです。

D児：Ｃさんに反対で，ぼくは息つぎをしないと苦しくなってしまうと思います……。

【終了後のＡ児の感想】

ぼくは，バタ足を強くすれば速く泳げると思っていたけど，みんなの意見を聞いて，手の動きに気をつけたり，息継ぎの回数を減らしたり，姿勢を良くしたりすることも大事なんだとわかりました。これから気をつけて練習していきたいです。

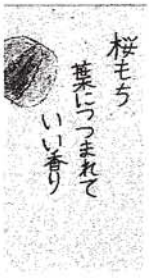
低学年の主なテーマ	中学年の主なテーマ	高学年の主なテーマ
・好きな果物　・好きな乗り物 ・１学期の思い出 ・夏休みに楽しかったこと ・サンタさんにプレゼントをもらうなら ・生まれ変わるなら男の子？女の子？ ・私のお気に入りの場所（ｸｲｽﾞﾄｰｸ） ・私の宝物（ｸｲｽﾞﾄｰｸ）	・好きなスポーツ　・好きな教科 ・習いたい習い事　・水泳の目標 ・群読会でがんばりたいこと ・水泳の振り返り ・雨の日の過ごし方 ・運動部がいいか音楽部がいいか ・もし１億円あったら？	・こんなクラスにしたい ・運動会で勝つためには ・土曜日に学校があったほうがいいか ・宿題はあったほうがいいか ・充実した夏休みを過ごすためには ・中山小学校のいいところ ・チャンピオンテスト合格必勝法

イ「ことトレタイム」

・　読んだり書いたりする力を育むために，視写や短作文・俳句作り，読書やボランティアによる読み聞かせを行っている。

視写

俳句作品



朝の読書

読み聞かせ

ウ　群読

・　声に出して読むことを楽しみながら技能を高めるために，全学年，朝の会で発声・発音練習とともに群読を行っている。

・　日頃の成果を披露する場として校内群読会を開き，学級で一つの作品を創り上げる感動や，全校で声を響かせる喜びを味わう場を設けている。

全校群読

わたしがぐんどく会でがんばったことは，大きな声ではっきりと言えたことです。きんちょうしたけれど，上手にはっぴょうできてうれしかったです。ちがう学年の声の大きさをまねして，これからはもっと大きな声を出したいです。

【２年生　E児の感想】

群読発表

6　研究を通した生徒指導の成果と課題

本研究を進めてきたことにより，以下のような成果がみられた。

○　対象へのかかわりが深まり，自然や科学的な事象に対する興味・関心が高まった。授業に意欲的に取り組めるようになったことで，「学校が楽しい」と感じられる子が多くなった。

子供が夢中になる教材や教具を準備し，出会わせ方を工夫したことで，子供たちの対象に対する意欲が増した。生活科や生活単元学習では，「私のザリガニは，みんなのとは違って，からが柔らかいよ。」「雨がたくさん降ったから，草がたくさん生えたね。」など，諸感覚を使って対象とかかわることで，見た目だけの気付きでなく，比較したり根拠をもったりして，気付きを深めることができた。理科では，「二酸化炭素の入ったペットボトルだけがつぶれたのは，二酸化炭素が水の中に入ってしまったからじゃないのかな。石灰水で調べられるはずだよ。」，「明日の授業が楽しみです。」など，主体的に追究できるようになった。

○　自分なりの考えをもって話し合い，考えを深めることができた。その中で人に認めてもらえる満足感や人とかかわっていくことの大切さに気付くことができた。

観察や実験から気付いたことをノートやワークシートに書いたり，自分なりの考えを絵や図で描いたりすることによって，自分の活動を見つめ直し，考えを確認したりはっきりさせたりすることができた。その結果，かかわり合いの場では積極的に考えを伝え合えるようになり，課題解決に向かって学び合う姿が増えてきた。また，考えを交流させる中で，一人一人の考えが深まると同時に，ものの見方や考え方も広がってきた。

○　問題解決の方法を知り，追究していく喜びを感じることができた。自分から進んで学ぶ方法を身につけたことで，自信をもって授業に取り組むことができるようになった。

子供たちの思考にそった問題解決型の学習「ステップなかやま」を推進してきたことで，問題を解決する方法や力が少しずつ身についてきた。また，対象に積極的にかかわり，自分たちで実験方法を工夫したり考えをかかわらせたりしながら課題を解決していく中で，友達と学び合う喜びや課題に向かって追究していく喜びを感じ取ることができた。

最近の子供たちを見ると，下校途中に草笛を吹いている子，自宅でもザリガニやメダカの飼育を始めた子，学校で学んだことをさらに発展させた自由研究に取り組む子など，以前には見られなかった姿が見られるようになってきた。また，サイエンスショーを心待ちにしていたり，放課になると急いでビオトープへ向かったりする子も増えてきた。こうした姿を見ると，子供たちの心に自然や科学を愛する心が着実に芽生えてきたことを感じる。そして，「授業が楽しい」，「学校が楽しい」と感じられるようになったことで，子供たちの心は安定し，毎日生き生きと生活している。実際に本校では，生徒指導上の大きな問題が起こることはほとんどなく，不登校児童が一人もいない状態が続いている。

今後も，「授業づくり」や「言語活動」を通した実践を重ねていく中で，子供たち一人一人が自分の存在価値を感じたり，人とかかわることの大切さを感じたりできるように支援していきたいと考える。